

ヨコレイ NOTE

...VOL.7

第64期報告書(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

ごあいさつ・社長インタビュー P1

営業の概況 P3

事業別の概況 P4

新中期経営計画 P5

特集

**「喜茂別物流センター(仮称)」の
建設を開始** P6

連結財務諸表(要約) P7

株式の状況・株主メモ P8

[ヨコレイくんが行く!『頑張るヨコレイVOL.6』]

**アジアにも
活躍の場を求めて** P9

ネットワーク・会社概要・役員及び執行役員 P10



「人」に「もの」に「地球」に“優しい” 食品流通のエキスパート

冷蔵倉庫事業

食材を中心に、お客さまからお預かりした貨物を最適な条件下で保管し、先進の物流・情報システムにより、ジャスト・イン・タイム物流の一翼を担っています。

食品販売事業

国内外の様々な食材を手掛け、輸出入を含む仕入から販売までを一貫して行うことにより、信頼性の高い食の供給に貢献しています。

■ ごあいさつ

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、「東日本大震災」により被災された皆さまの一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

第64期（平成22年10月1日から平成23年9月30日まで）の経営環境は、消費マインドは緩やかな改善がみられるものの、震災や電力使用制限、欧州発の金融危機、急激な円高など、非常に厳しい状況が継続しております。こうした環境の下で、当社グループでは、全社一丸となり基本である「本業に徹する」ことに注力し、第三次中期経営計画の重点施策を着実に実施してまいりました。その結果、増収増益となり、特に営業利益・経常利益では、東証一部上場来最高の業績を収めることができました。

代表取締役社長
吉川俊雄

■ 社長インタビュー

Q 第64期の業績とそれに対する評価をお聞かせください。

A 危機的状況の中で、社員が一体感を持ち、上場来最高の業績を達成することができました。

今から振り返ってみますと、第64期は実に大変な1年だったと思います。期初は非常に落ち着いた環境の中でスタートを切りましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降、福島原発事故に起因する電力使用制限をはじめ、欧州発の金融危機や急激な円高、集中豪雨による被害など、直接、間接を問わず経営に影響を与えかねない事態が続きました。このような危機的状況の中で、前向きに取り組んでいこうという意識が社員の中で醸成され、一体感を持って対応することができたと思います。

こうした取り組みの結果、営業利益、経常利益とも東京証券取引所第一部上場以来最高の業績を収めることができました。なお、当期純利益については、東日本大震災およびスクラップ&ビルドによる特別損失を計上したため、前期より若干のダウンとなりました。第64期はこうした業績面もさることながら、非常に厳しい経営環境の中で日頃から培ってきたヨコレイの社員力が、遺憾なく発揮されたことにいささかの誇りを感じています。

Q 第四次中期経営計画「Step Toward the Future」の基本的なお考えをお聞かせください。

A 「コア事業の強化」と「成長力の強化」を軸に、「成長に向けての脱皮」を図ります。

第四次中期経営計画の特長は、全社員が参画意識を持ち、自分たちの会社は自分たちでつくっていくという観点から、社員が中心となり創りあげてきたことにあります。本中計では、「成長に向けての脱皮」をスローガンに、未来へ向かっ

で飛躍することを明確にしました。これまでの価値観にとらわれず、当社グループがいち早く変わることが成長の原動力になると考えました。戦略目標として、これまでの地道な土台づくりが一定程度進んだことを踏まえ、「コア事業の強化」と「成長力の強化」を二つの柱に据えることとしました。グループ経営の進捗に目処が立ったことから、今後は成長の原動力をしっかりと確保し、原料サプライヤーとしての地位を確固たるものにしていきたいと考えています。

Q 第65期の取り組みについてお聞かせください。

A これまでの価値観にとらわれず、新しい価値観に基づいた柔軟かつ効率的な事業運営を目指します。

第65期では、第四次中期経営計画に基づき、新しい価値観で臨んでいきます。冷蔵倉庫事業では、地域の特性と需要を捉えた規模拡大の一環として、「喜茂別物流センター（仮称）」の建設に着手し、平成24年8月の稼働を目指します。また、冷蔵倉庫事業の裾野を広げるため、前

期に引き続き付加価値の高いトータル物流を積極的に進めていきます。こうした取り組みの一環として、ヨコレイグループと日新グループによる合併会社を設立しました。まず、タイ国内の低温物流サービスからスタートしますが、国際物流も視野に入れたノウハウと情報の蓄積も併せて推進し構築したいと考えています。

食品販売事業では、平成23年10月1日に九州水産事業部を再編したことにより全国10事業部制とし、柔軟かつ効率的な事業運営を目指す組織改革を行いました。これにより、コストの削減や効率的な管理を図っていききたいと考えています。また、前期に引き続き、海外での展示会へ出展し、世界市場で当社グループの存在感を高め、グローバル化を積極的に進めていく予定です。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A 業績の向上を通じて社会の発展に貢献する、明るく、元気な会社づくりを目指します。

会社が明るく、元気でいられれば、結果として業績が



向上します。そのため、当社グループは、社員が日頃から明るく、元気に一体感を持って仕事に臨める企業風土の確立を目指してきました。また、日頃から会社を支えていただいております株主の皆さまと社員は会社の両輪であり、どちらも欠かすことはできないものです。当社では、第64期において、株主の皆さまへの利益還元として1株につき年間20円の配当金とさせていただきます。今後とも当社は、これを維持・継続すべく業績の向上に努めてまいります。

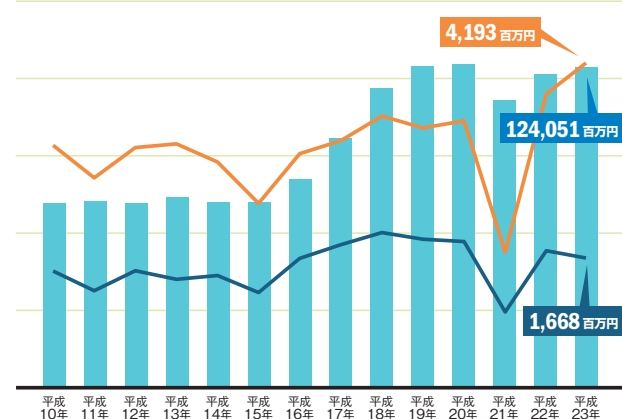
また、当社グループは、企業としての社会的責任を全うするため、CSR活動を積極的に展開しています。二酸化炭素削減策の一環として太陽光発電システムを積極的に導入するほか、太陽光発電システムの設置が不可能な事業所については、侵入熱を下げる屋上緑化の準備を進めています。このほか、横浜市教育委員会の呼びかけに応え、「未来を担う子どもたち」に向けた各種イベントに協賛させていただいております。

株主の皆さまにおかれましては、当社の経営方針ならびに経営施策につきまして、引き続きご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

財務ハイライト

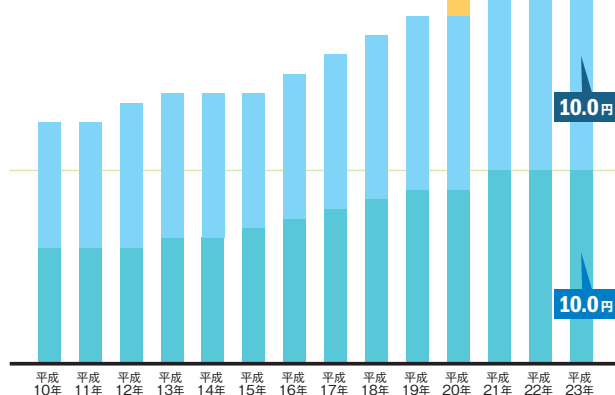
■ 売上高

— 営業利益 — 当期純利益



■ 配当金推移

■ 第2四半期 ■ 通期 ■ 記念配当



営業の概況

当期の概況

売上高

124,051 百万円

前期比
2.1%
UP

営業利益

4,193 百万円

前期比
10.6%
UP

経常利益

4,298 百万円

前期比
5.2%
UP

当期純利益

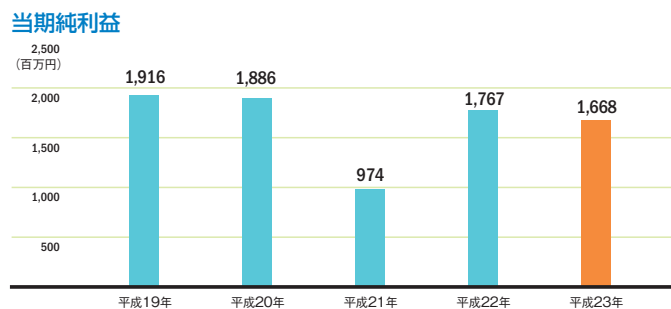
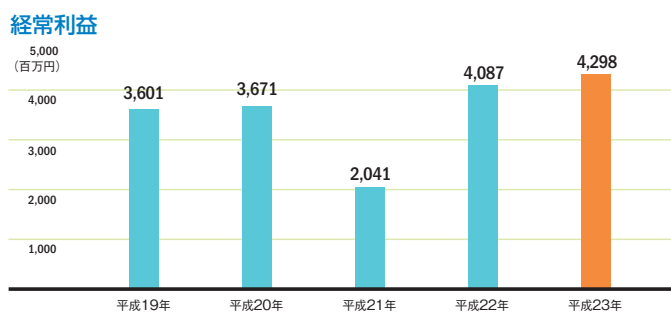
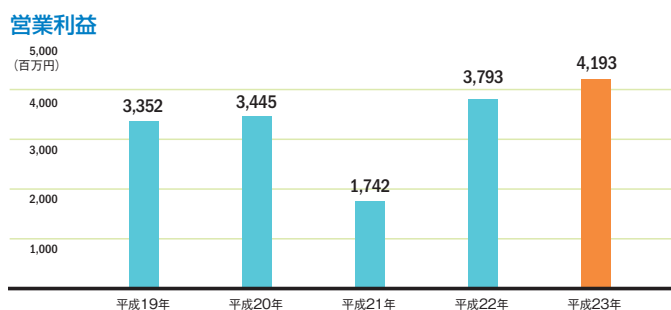
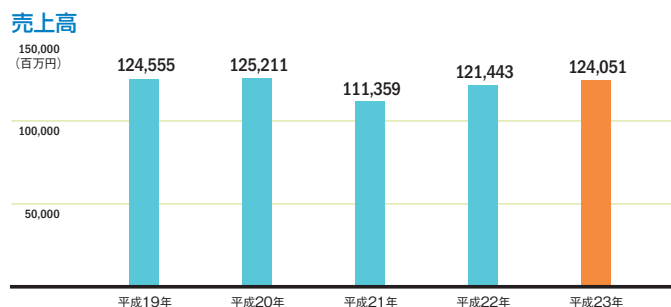
1,668 百万円

前期比
5.6%
DOWN

当社グループは、平成20年11月に発表いたしました第三次中期経営計画（3ヶ年）の最終年度を迎え、本中計の目標達成に向けて冷蔵倉庫事業部門では多彩な物流サービスの積極展開、食品販売事業部門では原料サプライヤーとしての機能向上を運営方針として、ともに更なるサービスの高度化や新規需要の開拓に積極的に取り組んで業績の向上に努めてまいりました。

また、当連結会計年度では、東日本大震災の「災害による損失」617百万円、スクラップ&ビルドによる大阪物流センターおよび旧鹿兒島物流センターの閉鎖に伴う「事業所閉鎖損失」381百万円、「資産除去債務」132百万円等の特別損失1,230百万円を計上しております。

その結果、当社グループの当連結会計年度の連結経営成績は、売上高124,051百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益4,193百万円（前年同期比10.6%増）、経常利益4,298百万円（前年同期比5.2%増）、当期純利益1,668百万円（前年同期比5.6%減）となりました。



次期の見通し

今後の経済環境の見通しは、欧州の政府債務に対する不安や世界経済の減速懸念、円高の進行、株価低迷などを背景に、景気回復のペースは先行き不透明感が高まっている状況にあります。

当社グループでは、このような状況を踏まえ、長期的なビジョンである「持続的な企業価値向上の実現」に向け、今後あらゆる環境の変化に強く、柔軟かつスピーディーに対応できる盤石な事業モデル構築の第一ステップとして、第四次中期経営計画「Step Toward the Future」（3ヶ年）を策定し、平成23年10月からスタートいたしました。

第65期からは、「コア事業の強化」と「成長力の強化」を事業運営方針の二つの柱とし、目標達成に向けて様々な施策に取り組んでまいります。

次期の業績見通しは、以下のとおりであります。

次期(平成24年9月期)連結業績予想

売上高 126,820 百万円

営業利益 4,740 百万円

経常利益 4,730 百万円

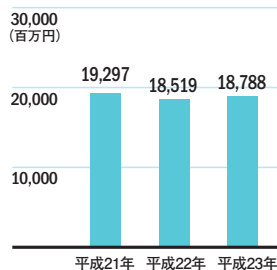
当期純利益 2,440 百万円

1株当たり当期純利益 47円15銭

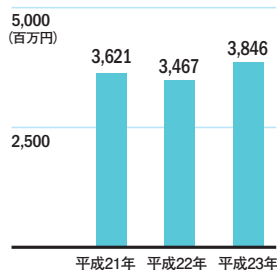
冷蔵倉庫事業

ネットワークを活かした物流一貫システムで、多彩な物流サービスを積極展開しています

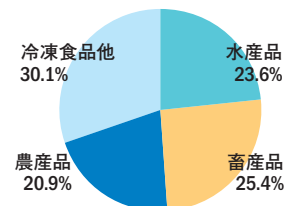
売上高



営業利益



当期在庫量品目別割合



当期の業績

当期は、貨物の荷動きは徐々に回復傾向にあるものの、物流コスト圧縮による在庫調整や、震災の影響による荷動きの低迷など厳しい環境で推移しました。このような環境下で、ブロック体制を軸とし、収益重視の集荷活動や作業効率の改善などのコスト削減に取り組んだ結果、売上高は18,788百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は3,846百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

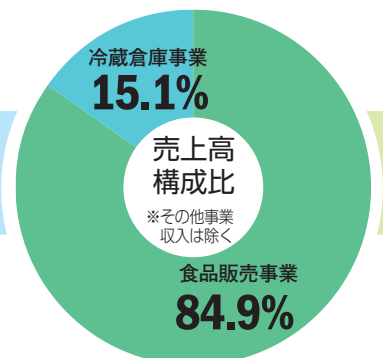
PICK UP

新物流センターが続々営業開始

北港物流センター・鹿児島物流センターおよびタイヨコレイ(株)のワンノイ物流センターの3物流センターが、計画通り竣工し、営業を開始しました。

北港物流センター・鹿児島物流センターは、新しい時代の物流センターとして、「高い品質管理」、「環境にやさしい冷蔵倉庫」、「最適な保管環境の提供」をコンセプトに、外観まで配慮し設計された物流センターであり、阪神・九州の物流の要として、今後が期待されます。

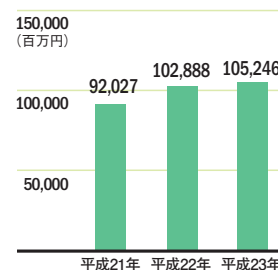
タイヨコレイ(株)のワンノイ物流センターは、ヨコレイ品質を持った物流センターとして、低温物流ニーズが高まるタイのお客様に、高い利便性を提供していきます。



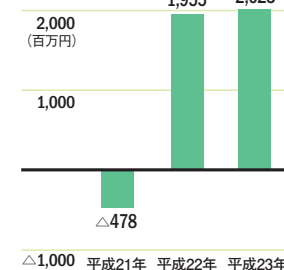
食品販売事業

原料サプライヤーとしての機能を向上させ、食卓に安心と美味しさを提供しています

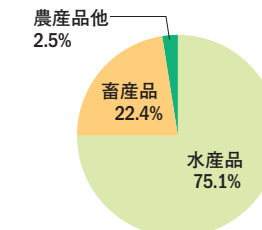
売上高



営業利益



品目別売上高構成比



当期の業績

当期は、国内消費需要の低迷が長引く環境下で、事業部制による徹底した在庫管理と利益率を重視した販売活動に取り組むとともに、原料サプライヤーとしての機能向上に努めてまいりました。その結果、売上高は105,246百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益は2,023百万円（前年同期比3.5%増）となりました。

PICK UP

需要が高まる加工食材

当社では、2009年にバンコクに駐在員事務所を開設し、原料供給のみならず、日本の量販店や外食チェーンの寿司エビ・尾付ムキエビなど、加工製品へのニーズに対応した商品開発にも注力しています。

一例として、品質管理を徹底したタイの協力工場で、活きたままのタイ産バナメイエビを「寿司エビ」に加工して供給しています。

同事務所の進出により、日本のタイ産エビ輸入量の約20%を占める取扱量となり、今年の6月にはThailand's Best Friends 2011を受賞しました。



第四次中期経営計画

Step Toward the Future
～成長に向けての脱皮～

第三次中期経営計画の成果

運営方針

社員による「ヨコレイ品質」の作り込み

【冷蔵倉庫事業】
多彩な物流サービスの積極提案

【食品販売事業】
「原料サプライヤー」としての機能再構築

企業価値の向上へ

2011年度実績（単体ベース）

売上高 **1,069**億円 対目標 104%

営業利益 **37**億円 対目標 102%

経常利益 **38**億円 対目標 105%

当期純利益 **15**億円 対目標 85%

● 当期純利益を除き、全て目標を達成

● 目標ROE 4%台 最終年度 2.7%

● 目標配当性向 40%以上 最終年度 67.0%

第四次中期経営計画の概要

位置付け

長期的ビジョン「持続的な企業価値向上の実現」に向けて、あらゆる環境の変化に強く、柔軟かつスピーディーに対応できる盤石な事業モデルを構築する第一ステップ。

基本方針

本中計の実現に向けて、コア事業の強化と成長力の強化を推進し、未来永劫成長を続け、存続する企業となるための事業モデルの礎を築きあげる。

ステップ戦略

コア事業の強化

成長力の強化

冷蔵倉庫事業

効率的な設備投資による収益向上

重点施策

戦略的なネットワーク展開

● 地域の特性と需要を捉えた物流センター等の新設などによる規模拡大

品質・サービスの競争力向上

● スクラップ&ビルドにより物流品質・物流ニーズの高度化や多様化に対応

低温物流サービスのドメイン拡充

重点施策

通関事業の業容拡大

● 事業基盤を活かした収益向上

国際物流サービスの構築

● Best Cold Chain Co.,Ltd.を活用したノウハウ、情報の蓄積

物流アウトソーシングサービスの構築

● 顧客ニーズに合わせた最適なサービスの提供

食品販売事業

環境変化に強い供給体制の再構築

重点施策

国内産地

● 国内の産地からの調達力をさらに強化

海外産地

● グループ会社を活用した海外調達ルートの拡大

収益構造改革・海外戦略の強化

重点施策

収益構造改革

● 組織のシンプル化

海外戦略の強化

● ネットワークを活用した海外取引の基盤強化

● タイを拠点とした海外展開

● 輸出入取引の拡大

ステップ戦略を
支える
サポート機能

人材育成

- 専門的なスキルを持つ人材
- 実践的なスキルを持つ人材
- グローバルな人材

グループ経営の強化

- グループ一丸となった総合力の強化

ITの推進

- 新規分野へのチャレンジ
- 環境に貢献するグリーンIT
- IT資産のスクラップ&ビルド

定量目標

持続的な
企業価値向上の実現

定量目標 (2014年9月期)

売上高

220
億円

営業利益

45
億円

売上高

1,280
億円

営業利益

35
億円

全社目標

売上高 **1,500**億円

営業利益 **63**億円

経常利益 **63**億円

当期純利益 **33**億円

特集：ヨコレイの事業紹介

「喜茂別物流センター(仮称)」の建設を開始

十勝・石狩に続く、北海道エリア第3の物流拠点として、物流ニーズに応えるパッキングセンターを備えた「喜茂別物流センター(仮称)」の新設を決定。

北海道虻田郡喜茂別町に新設される、「喜茂別物流センター(仮称)」は、道内有数の農産品の生産拠点である羊蹄山麓地区を控え、また、札幌・小樽や胆振地方を結ぶ道央地区の物流拠点として最適なロケーションに位置しています。

施設の特徴は、保管・凍結業務に加え、選別作業などのサービスを提供できるパッキングセンターを完備した、地域の物流ニーズに基づいた設計となっています。

喜茂別物流センター(仮称)が稼動すると、十勝・十勝第二・石狩とあわせ、道南・道東・道央と北海道の広いエリアをカバーできる物流拠点をヨコレイが備えることとなります。

喜茂別物流センター(仮称)の概要

構造・規模 ①鉄筋コンクリート造(2階建)

敷地面積 22,750㎡(6,900坪)

②収容能力 約15,000トン(合計・パッキングセンター除く)

F級 6,200トン C&F級 4,700トン C級 4,100トン

③凍結庫 10トン/日

④パッキングセンター 約300坪(4,600トン)

工期 着工:平成23年9月

竣工:平成24年8月 予定



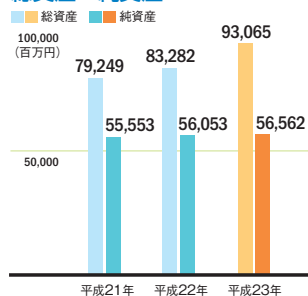
連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

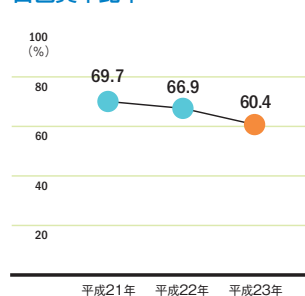
（単位：百万円）

科目	期別		科目	期別	
	第64期 平成23年9月30日現在	第63期 平成22年9月30日現在		第64期 平成23年9月30日現在	第63期 平成22年9月30日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	35,716	31,296	流動負債	22,710	19,571
固定資産	57,349	51,985	固定負債	13,793	7,657
有形固定資産	49,706	44,547	負債合計	36,503	27,228
無形固定資産	2,420	2,620	純資産の部		
投資その他の資産	5,222	4,817	株主資本	56,553	55,920
			資本金	11,065	11,065
			資本剰余金	11,109	11,109
			利益剰余金	34,897	34,264
			自己株式	△ 520	△ 519
			その他の包括利益累計額	△ 358	△ 236
			その他有価証券評価差額金	35	△ 59
			繰延ヘッジ損益	△ 224	△ 24
			為替換算調整勘定	△ 168	△ 152
			少数株主持分	367	369
資産合計	93,065	83,282	純資産合計	56,562	56,053
			負債純資産合計	93,065	83,282

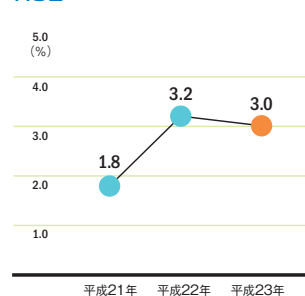
総資産・純資産



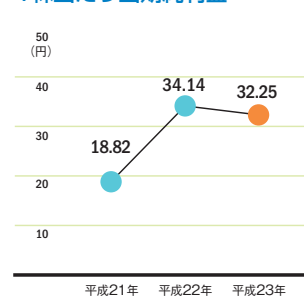
自己資本比率



ROE



1株当たり当期純利益



連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	期別	
	第64期 平成22年10月1日から平成23年9月30日まで	第63期 平成21年10月1日から平成22年9月30日まで
売上高	124,051	121,443
売上原価	113,055	110,912
売上総利益	10,996	10,531
販売費及び一般管理費	6,802	6,738
営業利益	4,193	3,793
営業外収益	348	520
営業外費用	243	226
経常利益	4,298	4,087
特別利益	126	93
特別損失	1,230	690
税金等調整前当期純利益	3,193	3,490
法人税、住民税及び事業税	1,514	1,650
法人税等調整額	△ 23	12
少数株主損益調整前当期純利益	1,702	—
少数株主利益	33	60
当期純利益	1,668	1,767

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	期別	
	第64期 平成22年10月1日から平成23年9月30日まで	第63期 平成21年10月1日から平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,067	△ 1,471
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,058	△ 2,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,686	2,880
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	△ 3
現金及び現金同等物の増減額	686	△ 1,316
現金及び現金同等物の期首残高	3,877	5,194
現金及び現金同等物の期末残高	4,563	3,877

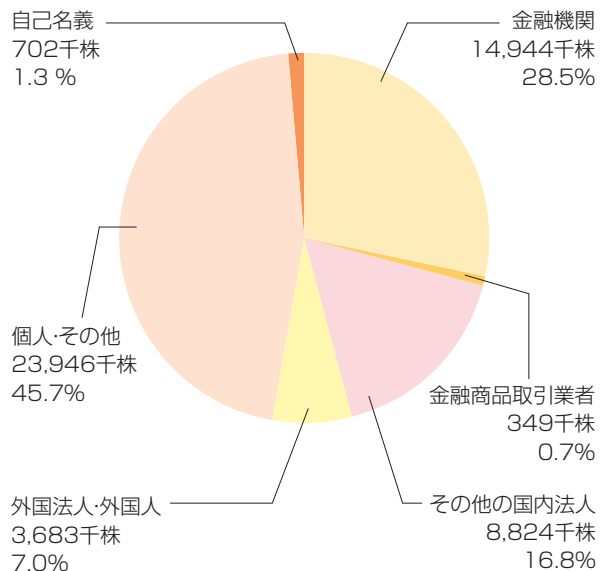
株式の状況 (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式の総数	52,450,969株
株主数	14,940名

大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	2,485	4.80
株式会社横浜銀行	2,176	4.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,930	3.73
農林中央金庫	1,473	2.85
株式会社八丁幸	1,411	2.73
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,144	2.21
横浜冷凍従業員持株会	1,122	2.17
株式会社サカタのタネ	1,022	1.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,001	1.94
横浜振興株式会社	892	1.72

所有者別株式分布状況



(注)持株比率は自己株式(702,073株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日
	剰余金の期末配当 9月30日
	剰余金の中間配当 3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告した日

公告の方法

電子公告
※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。

<http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/>

単元株式数 100株

上場取引所 東京証券取引所(第1部)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話:0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

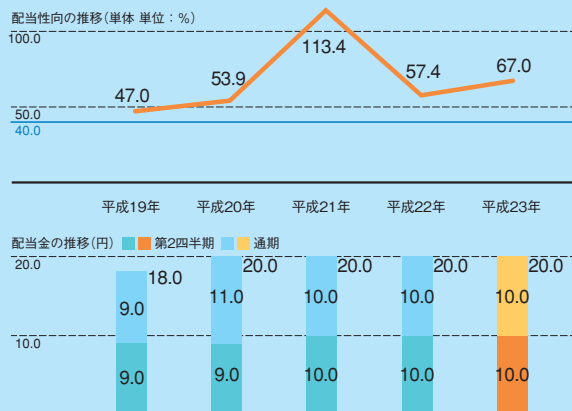
株主還元について

配当金・配当性向

ヨコレイでは、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題の1つとして認識し、配当性向40%以上の維持を目標とした安定配当の実現を基本方針としています。

当期の期末配当金は、この方針に基づき、1株当たり10円とし、年間配当金は20円とさせていただきます。

※平成20年の期末配当金には、記念配当2円を含んでいます。



株主優待

1,000株~3,000株未満保有の株主さま



ヨコレイグループが手掛ける「うなぎ蒲焼詰め合わせ(5尾入)」

3,000株以上保有の株主さま



弊社取扱商品である北海道産「ホタテ・いくらセット」

ヨコレイくんが行く!
頑張るヨコレイ VOL.6



今回の「ヨコレイくんが行く！」はアジアン・シーフード・エキスポを探検してきたよ!



アジアのヨコレイ、ブレイクの予感がするぞ

アジアにも活躍の場を求めて

今、ヨコレイは、世界市場を視野に入れたビジネスの強化に取り組んでいる。これまでもヨコレイでは、活鰻や鰻加工食品の輸入販売を行う(株)クローバートレーディングや、食品などの冷凍・冷蔵保管を事業とするタイヨコレイ(株)などを通じて、アジアでのビジネスに力を入れてきたんだ。ヨコレイの中期経営計画では、世界から輸入するだけでなく、これまで海外で築いてきたネットワークを活かして、日本産水産物の輸出拡大や三国間貿易を推進することになっているんだよ。

今年の5月には、もっと日本産の水産物を海外にアピールしようと、世界有数の「食の街」ベルギー・ブリュッセルで開かれた「欧州シーフード・エキスポ」

に出展したんだ。そして、今度はもともと魚食文化が栄えているアジアの市場にも、日本産水産物を売り込もうということで「アジアン・シーフード・エキスポ」にもはじめて出展したんだよ。



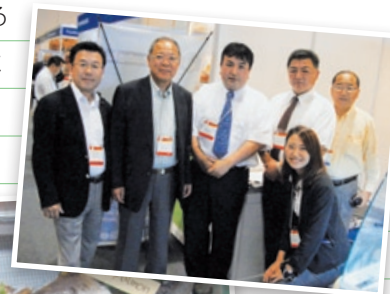
アジアン・シーフード・エキスポは新しいアイデア発見の場だ

「アジアン・シーフード・エキスポ」は、アジア市場での水産物の販売・仕入れルートの開拓を目的に香港で開催された水産物専門展示・商談会だ。また、香港の大規模な食品・飲料関連の見本市「レストラン&バー香港エキスポ」と併催されているため、香港や中国などの主要バイヤーにアプローチできる絶好の機会だと言える。香港といえば、「食通の街」として知られているけど、日本の農林水産物や食品などの最大輸出先でもあるんだよ。

第1回の去年は、アジアの国々を中心に世界各国から1,250㎡の展示スペースに103社が出展し、第2回の今年は1,800㎡に154社が出展するなど、年々規模を拡大している。来年は展示スペースを2,500㎡に拡大することを予定しており、出展社もさらに増える見込みだ。「アジアン・シーフード・エキスポ」は、「食通の街」香港で食材関連のコアイベントとして着実に拡大、定着しつつあるんだね。

ヨコレイが出展したブースには、これまでのお客さま3社を含む約50社のお客さまが訪れ、かなり突っ込んだ商談ができたそうだよ。また、食通が集う街だけあって、最新かつ先端をゆく製品も出展されており、今後、アジア市場でビジネスを進めていくうえでアイデアやヒントを得る大きなきっかけとなったことは確かみたいだ。

年々、規模を拡大している「アジアン・シーフード・エキスポ」だけど、来年は展示スペースも拡大されることから、冷凍食品のブースもかなり出展されるらしい。ヨコレイでは、当初、はじめての出展ということもあり、トライアル的な意味合いが強かったみたいなんだけど、実際に展示してみて、商談自体、非常に中身の濃いもので、今後のビジネスに対する確かな手応えを実感できたようだよ。海外から輸入するだけでなく、日本産水産物をどんどん輸出するためにも、ヨコレイにはもっと頑張ってほしいものだ。



輸入も輸出も手がけるヨコレイだからこそ、世界の市場で活躍できるんだね。次回も楽しみにね。



□ ネットワーク (平成23年9月30日現在)

● 冷蔵倉庫事業

全国 **39** 拠点

● 食品販売事業

全国 **21** 拠点

● 海外拠点

■ バンコク駐在員事務所

● 連結子会社

- 株式会社アライアンスシーフーズ
- 株式会社クローバートレーディング
- THAI YOKOREI CO., LTD. (タイ)

□ 会社概要 (平成23年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社
 本社所在地 〒220-0022 横浜市西区花咲町六丁目145番地
 横浜花咲ビル7階
 TEL : 045-326-1010(代表)
 FAX : 045-326-1145

設立 昭和23年5月13日
 資本金 11,065,926,625円
 従業員数 968名
 業務内容 1.冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
 2.水産品の加工、販売並びに輸出入
 3.農畜産物の加工、販売並びに輸出入
 4.不動産賃貸業
 5.通関業
 6.貨物運送取扱事業並びに貨物自動車運送事業
 7.食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
 8.その他前各号に付帯関連する一切の事業
 (定款における事業目的)

□ 役員及び執行役員 (平成23年12月21日現在)

代表取締役社長	吉川俊雄
常務取締役	岩渕文雄
常務取締役	水野隆明
取締役	中西啓文
取締役	飯島敏正
取締役	千田重賢
取締役	西山敏彦
取締役	井上祐司
取締役	越智孝次
常勤監査役	吉橋伊知男
常勤監査役	平野順三
監査役(独立)	棚橋栄蔵
監査役	西元徹也
上席執行役員	大久保孝一
執行役員	笹崎正人
執行役員	岩倉山二
執行役員	畑村文男
執行役員	松原弘幸
執行役員	野崎博嗣
執行役員	池田浩人
執行役員	宮内英治

ヨコレイ TOPICS

2011年度神奈川新聞広告賞 特別賞を受賞

神奈川新聞社が神奈川新聞(別刷り含む)に掲載されたオリジナル広告の出稿社や、広告の制作に関わったデザイナー、クリエイターをたたえる目的で毎年行っている「神奈川新聞広告賞」。2010年10月1日から2011年9月30日を審査対象とした2011年度神奈川新聞広告賞において、候補作品287点の中から、当社の広告が特別賞を受賞いたしました。



“Thailand’s Best Friends 2011”受賞

当社は、タイ王国の輸出活性化に寄与した企業として、有力なお取引先さまの推薦を受け、タイ王国商務省主催“Thailand’s Best Friends 2011”において、全世界100社にのぼる、様々な業界の企業と共に受賞しました。



ホームページのご紹介

<http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。

また、食の安全安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介します。

ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。



IR情報インデックス



CSRの取り組み



個人投資家の皆様へ

株主さま向けアンケート

株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2874

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお持ちの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media) についての詳細<http://www.a2media.co.jp> ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com